

社会（地理歴史）科

報告者：奥田 雅大

1 課題

本校では読解力の育成を学習指導の目標としている。読解力の定義は、OECDの「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」を参照した。本校の課題である読解力を高めるために、本実践ではテキストの理解を基盤にして熟考する機会を設ける。

2 目標

「【地理歴史編】高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）」において、「社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ（中略）グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な現代世界に関する地理的認識を養う」ことが目標として掲げられている。そのため、今回は複数の統計資料から情報を読み取り、新聞記事や現代の問題と関連させた問いに対して知識を利用して熟考することに重点を置く。

3 具体的方策

各単元において教科書本文や地図帳、新聞記事などの諸資料から読み取る活動を取り入れた。また、資料などから読み取った内容を一人1台端末からMicrosoft Teamsに入力し、クラス内で共有した。それにより考え方や取り組み方、問いに対してどのような知識を利用するかについて生徒同士で共有する機会を設ける。

4 結果

定期考査において、資料から読み取り記述する問題の回答率、正答率が上昇した。また、資料を組み合わせて解く問題の正答率も上昇した。以上のことから、個人ワークやグループワークに意欲的に取り組んだ生徒の多くは、目標としていたテキストを理解し、利用し、熟考する能力の向上に一定の成果があったと考える。

5 次年度に向けての課題

生徒に熟考する機会を設けるにあたり必要となる知識の精選と課題の個別最適化を図ることが課題である。今年度の反省として、生徒一人ひとりの到達度に合わせた課題を設けることができなかったことが挙げられる。Microsoft Teamsを活用してグループワークを行ったが、全員で協力するグループよりも個人で作業をし、周りの生徒がフリーライダーとなる姿も見られた。結果的に、フリーライダーとなった生徒の定期考査の得点は平均点以下であることが多く、かつ個人内評価の推移を見ても大きな変化がなかったことから生徒一人ひとりに適した課題の設定になっていないといえる。そこで、難易度別に課題を複数設定し、各単元に2回程度課題解決型学習を取り入れ、到達度を確認したい。